健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

リビング・ウイル

2018年
4月発行
No.169

作家

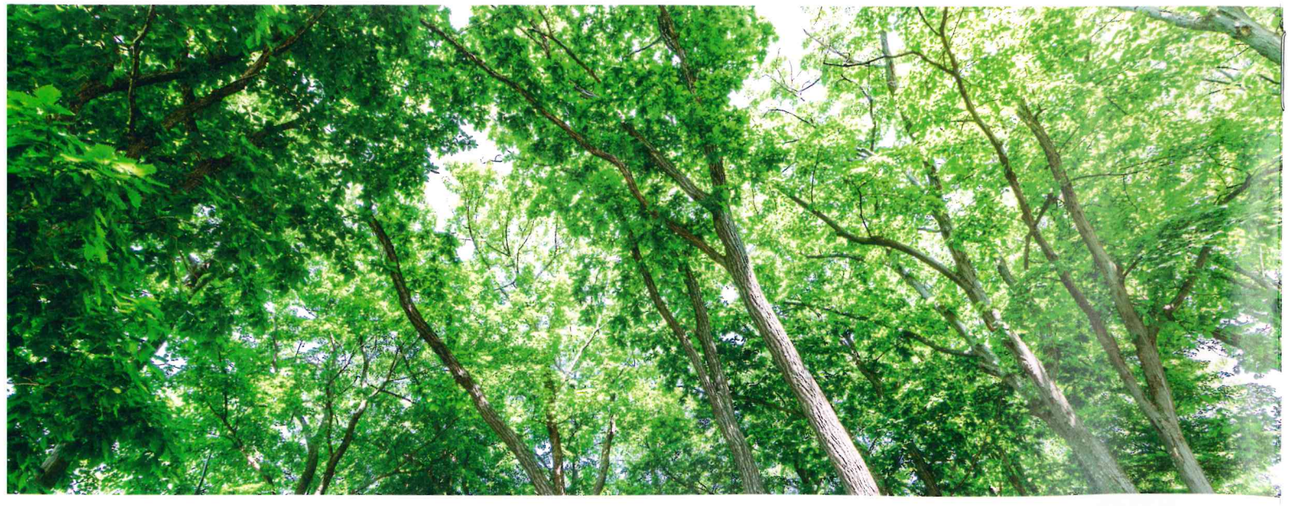
北方謙三さん

最期を従容として受け入れる

○「Web入会」がスタート

○清水秀文・受容協力医に聞く

○連載「四季の歌」朧月夜



一般財団法人
日本尊厳死協会

Living Will No.169 2018年4月発行

発行 一般財団法人日本尊厳死協会 編集 協会会報編集部

デザイン FROG KING STUDIO 印刷 JPビズメール株式会社

出版案内 日本尊厳死協会がお勧めする必読の書

家族と平穏死をかなえる完全ガイド

さいごまで自宅で診てくれるいいお医者さん

好評発売中 定価980円(税込) B5判・132ページ

週刊朝日ムック

●トップ対談
日本医師会・横倉義武会長×日本尊厳死協会・岩尾總一郎理事長

●自宅で親を看取った有名人対談
小池百合子(東京都知事)×久坂部羊(作家・医師)

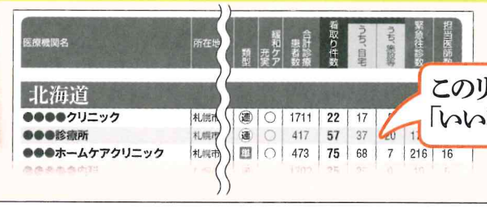
●こんなときは在宅医
がん終末期、誤嚥性肺炎…

●在宅医療を始める前の基礎知識／かかるお金

●家族が知っておきたい最後の迎え方

●長尾和宏医師が解説「いい在宅医の探し方」

最新の厚生労働省データを独自入手
看取り実績を一挙公開!
全国 2104診療所リスト



このリストから「いい在宅医」が見つかる!

お求めはお近くの書店、ASA(朝日新聞販売所)へお申し込みください。

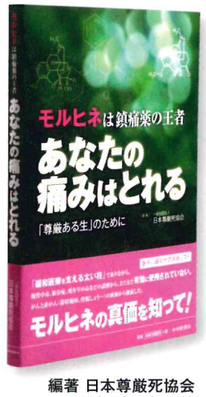
朝日新聞出版ホームページ、またはお電話でも受け付けております。
TEL03-5540-7793
(直販担当、平日10~18時)

朝日新聞出版より直送の場合、下記送料がかかります。
●代金引換払い
(お電話での注文の場合)
・ご注文金額が1500円(税込)以上の場合、送料230円(税込)／1回
・ご注文金額が1500円(税込)未満の場合、送料530円(税込)／1回

※日本尊厳死協会では扱っておりません

医療用麻薬を適切に使用した緩和医療は会員の願いです。

モルヒネは鎮痛薬の王者
あなたの痛みはとれる



編著 日本尊厳死協会
発行 中日新聞社

専門医が病態ごとに「不治かつ末期」を分かりやすく説明しています。あなたの「?」に答えがあります。

新・私が決める尊厳死
「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会
発売 中日新聞社

お求めは協会事務局で

いずれも1100円(税・送料込)。お名前、住所、会員の方は会員番号、購入希望本を明記、代金を現金書留または切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に。

インタビュー

作家

北方謙三さん

最期を従容として受け入れる

インタビュアー　企画広報・江藤真佐子／構成　会報編集・郡司　武
写真　八重樫信之

――北方さんには、いわゆる「カッコいい」というイメージがありますが、男の美学みたいなものを身につけて、自然とそのようになったのでしょうか。

北方　いやあ、カッコよくないですよ。私の小説は、男が死んでいくというテーマが多いので、読者は私を「カッコよく生きて、カッコよく死んでいく」と見ているようですけど、現実生活の私は、ごく普通に生きてるんです。ただ若い人たちのロックバンドのライブに行ったり、付き合ったりはしますよ。常に若い人たちへのアンテナは伸ばしておきたいと思うので。

――もう70歳になられたんですね。

北方　去年70歳になりましたが、小説家として、これから二十歳（はたち）の青年を主人公にした小説を書くことがあるかも知れない。その場合、私の二十歳のときじゃなくて、いまの二十歳の連中が、どう思い、何を感じているのかをちゃんと知っておきたい、という思いはありますね。

私はどちらかというと、生きたいように生きてるといいますかね。たとえばダメージのジーンズを履こうとします。でも実際のそれは、きつくて窮屈なのでやめて、ストレッチのダメージ風のを履いたりはしています。特に若ぶったり、無理して気張ったりはしていません。自然体であって、カッコいいつもりはないんです。

――なるほど。そういう北方さんが日本尊厳死協会に入会されています。そのきっかけは？

北方　私の母が入ってたんです。家内の父は呼吸器の病気で亡くなったんですが、母は何度も見舞いにいっていて、人工呼吸器をつけて苦しそうにしてるのを見てね、「あれはしたくない」と強く思ったようです。要するに「生命をきちんと守るにしては過剰なことである」と。私は医学が過剰になることもあるんだろうとは思いますが、母はそう思った。それが信念みたいになって、「私は尊厳死協会に入る。これ以上回復できないとなったら水分だけにしてもらって死んでいく」と。実際は、そうすることもなく、2年前に、あっという間に死んでしまいました。92歳でした。

――お母さんが入会されたのは1989年ですね。

北方　母は家内の父の死などに接して、生命観が変わったんでしょうね。「一日でも長生きしたいとは思わなくなった」と言ってました。呼吸器の措置は特に残酷なところがありますからね。

「人工呼吸をしていた医師に『もういい』と」

――お母さんの最期はどのようなものでしたか。

北方　舌がんで手術をして治ったんですが、ところが何回も入退院を繰り返しているうちに肺炎になりましてね。家に戻っていたときに私たちは「体を動かさずに安静に」と言ってたんですけど、人がいなくなると動くんですよ。テーブルの上を片付けようとして椅子

と一緒に倒れて、ここ（脇腹のあたりに手をあて）を打ったんです。すぐに二階にいた私の娘が下りてきて、ほどなく出かけていた家内も帰ってきて、当座は3人で普通にお茶をするくらいだったんですが、変だったのは「部屋に行って寝る」と言ったらしいんです。「これはおかしい」となって、すぐにタクシーで病院に向かいました。講演の仕事だった私にも、すぐに電話が入りました。母は救急室に入って医師と話しているうちに、急に顔色がスーッと蒼くなってきたんだそうです。「顔色が変です！」と家内が言ったら、医師に「すぐにここから出てください」と言われ、心臓マッサージが始まりました。もう肺にどんどんどんどん出血していて、止まらないという状態。私も講演を終えて、駆けつけました。

――それは大変でしたね。

北方　私が着いた時には、救命救急の先生が「いや、もうほとんど死んでます」って言うんです。あとは胸を開いて中の血を除去して血を止め、閉じるという方法しかありませんが、「その処置をしますか」と言われました。

――それで、どうされましたか。

北方　それは母の意思に沿わないと思います、と伝え、人工呼吸をしていた先生に「もういいです」と言って、止めてもらいました。そして、そのまま亡くなりました。ただ私が来たのはわかったみたいで、パチっと目を開いて、私のほうを見ました。家で椅子から倒れてほんの4、5時間で亡くなったわけです。その時には、私は母が尊厳死協会に入っていることを知ってはいましたが、医師に伝えたりはしませんでしたね。

――そうでしたか。北方さんが、人工呼吸をしていた医師に「もういいです」と言えたのは、お母さんと、そういったことを常に話されていたからですか。

北方　常日頃、母は言ってました。手当として例えば、「もう、これは胃ろうしかない」となったりした時は、自分はやりたくないからね、と。それをしたことで、少しの日数生きていたとして、それが何になるんだろうと言ってました。それで医師に「人工呼吸はもういいです」と迷いもなく申し上げたわけです。そうしたら医師は「わかりました。出血を止められなかったのは、医学の敗北です」とおっしゃいました。

実は父も、急に亡くなったんです。30年以上前になりますかね。会社で若い人たちと食事していて、「いやあ、よく食べますね」なんて言われて、自分の部屋に戻ったときにバタッと倒れたんです。たぶん心細動だったんじゃないですかね。部屋に入ってからでしたからすぐには気づかれなかった。倒れているのが分かり、すぐに会社の診療所に運ばれましたが、医師に「これはダメだろう」と言われているうちに、すーっと亡くなりました。

――ご両親とも、ほんとに急な最期だったんですね。

北方　家内の両親は急ではなくて、先ほど話しましたように父親は呼吸器で苦しんだりしての最期でしたから、家内もショックを受けまして、「生き延びるというのは、必ずしもよくないんだ」と思うようになったようです。ちゃんと生活の質が保たれていればいいけど、管だらけになってひと月生き延びたところで何の意味があるんだ、と。そんなことを、同居していた私の母とよく話していたみたいです。

「小説書けないなら生き延びてもなあ…」

――それで、奥様と北方さんとご一緒に尊厳死協会に入られたんですか。2014年5月、ご夫妻とも67歳でした。

北方　一緒に入ったと思います、たぶん。私は「サインして」と言われてサインしたような記憶が。

――あら、そうでしたか。（笑い）

北方　家内に「おばあちゃんはとっくの昔に入会してるのよ。私たちもいい歳になったんだから」と言われて。「あなたは生き延びたいんですか」とか、そんなことも言われましたかね。私は「小説書けないんだったら生き延びてもなあ……」と言ったと思います。

――「小説を書きたい」というのが、若い頃からの北方さんの強い思いですよね。そんな昔からの「小説書き」の盟友・立松和平さんは早くに亡くなられました。

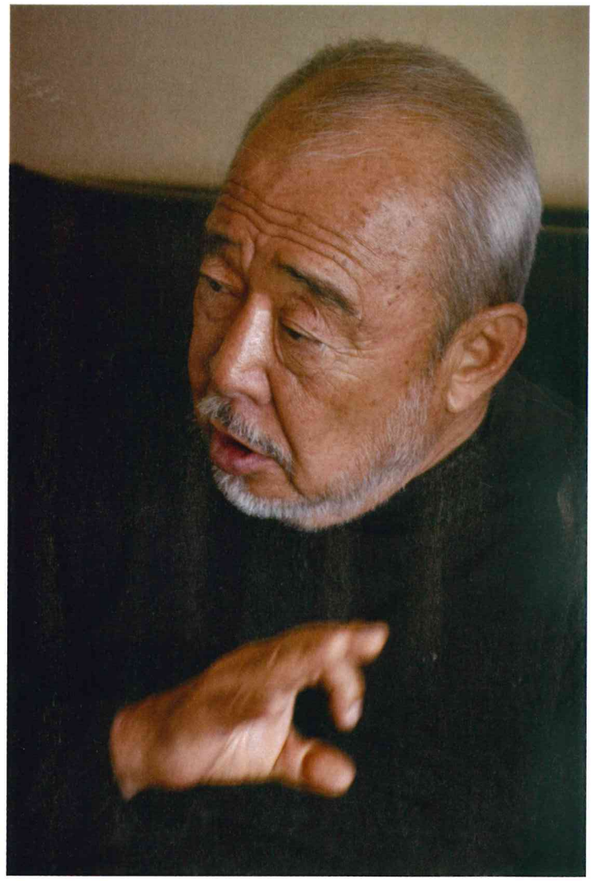
北方　立松は、ずっと心臓に問題を抱えていましたからね。彼とは20歳くらいからの、まさに盟友でした。同じ歳だったし。売れない頃に、新宿のゴールデン街なんかで飲んでて、中上健次も入って3人でけんかしたりしてね。ゴロゴロ転がって、何が何だかわけわかんない状態。そこへ、ちょうどヤクザが若い衆5、6人連れて通りかかって、「コラー、お前ら何やってんだ。座れ」とか言われて正座させられて。「人に迷惑かけるんじゃねえ」と、頭たたかれたこともありました。漫画みたいでしたよ、ハハハ。

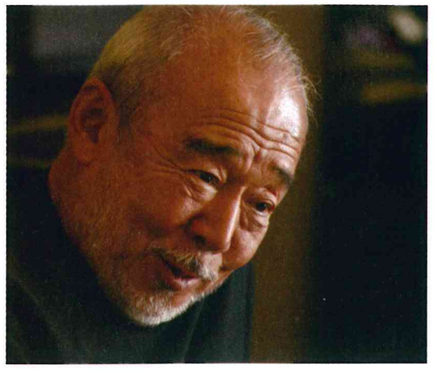
――北方さんは、若いころは売れない時もあったでしょうが、やがて「ハードボイルド小説の旗手」として一躍脚光を浴び、40歳代から歴史小説を手がけ、そしてこの十数年、『水滸伝』『楊令伝』『岳飛伝』と全51巻を完結しています。大変なエネルギーだと思いますし、書くことに関していえば、失礼ですが、外見から受けるイメージとは違って、相当ストイックですよね。

北方　えーっ？　外見もストイックに見えませんか？

――あまり、見えませんけど（笑

「母は家内の父の死に接し生命観が変わったんでしょうね」



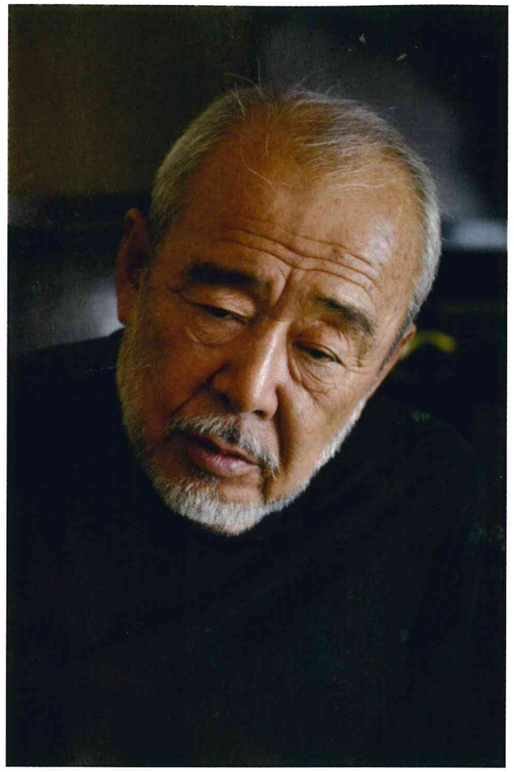


きたかた・けんぞう

1947年、佐賀県生まれ。作家。小学５年の時に神奈川県に転居。中央大学法学部卒業。在学中に学生作家としてデビュー。1981年に『弔鐘はるかなり』を初めて出版。その後、『檻』『逃がれの街』などヒット作を次々と生み出し“ハードボイルド小説の旗手”として人気作家に。1989年に南北朝時代を舞台にした初の歴史小説『武王の門』を発表。以降、中国史へと裾野を広げ、北方版『三国志』をはじめ、2000年から『水滸伝』『楊令伝』『岳飛伝』の３部作全51巻を刊行し、完結。司馬遼太郎賞、毎日出版文化賞、菊池寛賞などを受賞。

い）。**豪放磊落に映りますよ。**

北方　いやあ、わりと、細かいところを気にするんです。典型的なA型でね。歴史小説を書いてる時から、資料で間違えることは全くなかったし、登場人物も「死んだ奴が生き返る」なんてことはなかったし（笑い）、神経質でぴしっとしてるんです。『水滸伝』には何百人って出てくるんですけど、全部整合性は取れていますよ。ただ、私は、人がやることが細かく見えてしまうようなA型である自分が嫌で、O型みたいに振る舞っているうちにO型みたいになっちゃった部分が、表面的にはあると実は思っているんです。まあ、本質はA型なんでしょうね。



「カッコよく生きた奴が死んでいくときは、じつにカッコいい」

「万年筆を握りしめ原稿用紙の上で死にたい」

――それは可笑しいですね。話は変わりますが、北方さんの小説の場合、「死」をテーマにされることが多いですよね。

北方　多いですね。純文学で「死」をテーマにすると観念的にならざるを得ないですよ。生きている人間にとって「死」は、観念でしかない。事実ではないんです、周りの人間から見ると事実ですけどね。自分だけで考えると観念でしかない。それは、小説としてはじつにつまらない。それがね、私のように、男の死にざまを書くようになると、カッコよく生きる姿を書こうとします。カッコよく生きた奴が死んでいくときは、それはじつにカッコいいんですよ。

私は、「きちんと生き、ちゃんと死ねるということはどういうことか」を、ずっとテーマにしてきたといってもいいと思いますね。

――なるほど。いい言葉ですね。最後になりましたが、ご自身の最期についての美学みたいなものはおありですか。

北方　ほとんどないですね。家内には、小説に命をかけた人生なんだから「オレは万年筆を握りしめて原稿用紙の上でパタッと死にたい」と言ってるんです。ハハハ、カッコイイですかね。小説を書けなくなったら、もう死んでもいいと、ほんとにそう思ってるんです。これを読んでくださってる人も、死ぬ時というのは決まってるんですから、従容として受け入れる、ということではないでしょうか。

インタビューを終えて

青年向けファッション誌の人生相談で「小僧ども」と語りかけていた北方さん。豪胆な外観とは違い、仕事に対する姿勢はストイックで、周囲に対しては人情肌の方でした。きちんと生きればちゃんと死ねる、というストレートな言葉に納得しました。

企画広報・江藤真佐子

リビング・ウイル
（終末期医療における事前指示書）について

一般財団法人 日本尊厳死協会

1．日本尊厳死協会発行の「リビング・ウイル」（以下LW）は、人生の最終段階（終末期）を迎えたときの医療の選択について事前に意思表示しておく文書です。表明された意思がケアに携わる方々に伝わり、尊重され、あなたが自分らしく誇りを持って最期を生きることにつながります。

2．このLWは、ご自分が意思表示できなくなった状況において、意に添わぬ、ただ単に死の瞬間を引き延ばす延命措置を受けずに済むようにするものです。一時的に生命維持が困難になった患者の回復を目的とする「救命」を拒むものではありません。

3．外傷や神経、心臓、肺などの病気、あるいは遺伝性の病気により、人工呼吸器等の生命維持装置を使い生活されている方にとって、生命維持に関わる措置は延命措置ではないことは言うまでもありません。

4．もしもの時、どのような医療を望むか、望まないかはあなた自身が決めることです。これは憲法に保障されている基本的人権の根幹である自己決定権に基づいています。

5．LWを作成するにあたり、終末期の様々な状態と措置について、当協会や厚労省の資料などから適切な情報提供を受け、内容をよく理解した上で、最善と思う選択をしていただきます。

6．LW作成にはかかりつけ医や医療チーム、訓練を受けたアドバイザーから十分な説明を受け、ご家族を含めた話し合いを繰り返し、よりよい選択をすることを推奨します。この相談過程をアドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning：ACP）と言い、現在、LW作成に望ましい形とされています。

7．ご家族や医療者との話し合いや合意は望ましいのですが、最も優先されるべきはご本人の意思です。LWを作りたくない方は作る必要がなく、強制されたものは無効です。大切なことは、医療者、ご家族、あなたをサポートしてくれる方とLW情報を共有し、理解し合えることです。

8．このLWは、署名者本人の考え方が変われば、いつでも破棄、撤回することができます。病状の変化、医学的評価の変更があれば、人の常として気持ちが変わることもあります。たとえば、年の初めや誕生日などにご自身の意思を確かめておくのも大切です。

人生の最終段階（終末期）とは：
かつては終末期という表現をしていましたが、人生の最終段階には、がんの末期のように、予後が数日から長くとも2-3ヶ月と予測が出来る場合、慢性疾患の急性増悪を繰り返し予後不良に陥る場合、脳血管疾患の後遺症や老衰など数ヶ月から数年にかけ死を迎える場合があります。どのような状態が人生の最終段階かは、患者の状態を踏まえて、医療・ケアチームの適切かつ妥当な判断によるべき事柄です。（厚労省「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」より引用。）
認知症については、生命予後が極めて悪くなるような身体症状の出現をもって末期と考えます。

生命維持に対する措置とは：
人工呼吸器装着、中心静脈管や胃管などを通した人工栄養補給、水分補給、腎臓透析、化学療法、抗生物質投与、輸血など。

裏に「私の希望表明書」があります

会員様が保管する文書です

キリトリ

私の希望表明書

私は、協会発行の「リビング・ウイル（終末期医療における事前指示書）」で、延命措置を受けたくないという意思をすでに表明しています。それに加えて、人生の最終段階を迎えた時に備え、私の思いや具体的な医療に対する要望をこの文書にしました。自分らしい最期を生きるための「私の希望」です。

記入日　　年　　月　　日　　本人署名

希望する項目にチェックを入れました。

1．最期を過ごしたい場所（一つだけ印をつけてください）

□自宅　□病院　□介護施設　□分からない
□その他（　　）

2．私が大切にしたいこと（複数に印をつけても構いません）

□できる限り自立した生活をすること　□大切な人との時間を十分に持つこと
□弱った姿を他人に見せたくない　□食事や排泄が自力でできること
□静かな環境で過ごすこと　□回復の可能性があるならばあらゆる措置を受けたい
□その他（　　）

※以下「3」と「4」は、「ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りします」という表現では伝えきれない希望や、「止めてほしい延命措置」の具体的な中身を明確にするためのものです。

3．自分で食べることができなくなり、医師より回復不能と判断された時の栄養手段で希望すること（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

□経鼻チューブ栄養　□中心静脈栄養　□胃ろう　□点滴による水分補給
□口から入るものを食べる分だけ食べさせてもらう

4．医師が回復不能と判断した時、私がして欲しくないこと
（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

□心肺蘇生　□人工呼吸器　□気管切開　□人工透析　□酸素吸入
□輸血　□昇圧剤や強心剤　□抗生物質　□抗がん剤　□点滴

5．その他の希望

【用語の説明】

●**心肺蘇生**：心臓マッサージ、気管挿管（口や鼻から気管に管を入れる）、電気的除細動、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与などの医療行為。

●**人工呼吸器**：自力で十分な呼吸ができない状態の時に、肺に機械ポンプで空気や酸素を送り込む機器。マスク装着のみで行う場合もあるが、重症の際はチューブを口や鼻から入れる気管挿管を行う。1～2週間以上続ける場合は、のどに穴を開ける気管切開（喉仏の下から直接気管に管を入れる）をしてチューブを入れる。

●**胃ろうによる栄養補給**：内視鏡を使い、局所麻酔で胃に管を通す手術を行う。その管を通して栄養を胃に直接注入すること。

（発行　一般財団法人 日本尊厳死協会）

「Web入会」がスタートしました
LW普及や会員サービス向上めざし

協会ホームページから「リビング・ウイル」（LW）の登録ができる「Web入会」が2月末、スタートしました。協会入会方法は、入会案内書の取り寄せによる従来方式と合わせて、2つの方法が利用できます。

パソコン、スマホから会員登録が可能に

暮らしのなかにインターネットの活用が広がり、「Web入会」は長年の懸案でした。パソコンやスマートフォンから協会ホームページにアクセスし、入会手続きが容易にでき、LW普及や会員サービスの向上に役立ちます。

個人の意思表明に必要な「自署」など幾つかのハードルには協会も柔軟に対応して実現に漕ぎつけました。

Web入会希望者は、協会HP上の「スマートフォン・パソコンから新規入会」バナーから入会手続に進めます。必要データを入力し、送信ボタンを押せば入会申し込みが協会に届きます。

入会初年度の会費納入は「カード決済」です。利用できるのは「visa」「Mastercard」の2社でスタートします。追って他社の利用も可能にします。

入会データと会費納入が確認できると「会員登録」が完了します。メールで必要書類（PDFで次の3点）が会員に送信されます。

①「リビング・ウイル」本体＝会員番号、発行協会印付き。
②「私の希望表明書」についての説明書。
③「私の希望表明書」本体。

送受信で進む登録 LWは自署し自己保管

送信された「LW」本体には氏名が記入済みですが、「自署」欄は空白です。まず本人が署名して、LW本体はご自身で保管して頂きます。従来方式の入会では自署LWは協会で保管しますが、Web入会ではこの点が異なります。

「私の希望表明書」は、LW本体を補完する個々の医療措置や人それぞれの思いを残す書面です。ただLWと異なり、協会に登録しておく書面ではなく、必要とする会員が個人的に所有し、適宜活用して頂きます。必要に応じてHPからダウンロードできます。

また「会員証」は「LW（自署空欄）コピー2枚」とともに別途郵送いたします。

協会HP上には「会員マイページ」が置かれ、住所変更、会員証再発行、あるいは退会など諸手続きがすぐできます。当面はWeb入会専用です。

電話や郵便による入会案内書請求方式では、入会申し込みから会員証が届くまで最短1週間を要しました。Web入会ではスピードアップされます。

協会HPの「新規入会」ページに協会やLWについての説明を掲載しています。特に「リビング・ウイルに関する説明」は、LW作成に当たり理解を得たい協会からの大切なメッセージです。

患者さんの意思表明書を地域医療機関で共有するICT（情報通信技術）活用が考えられる時代です。Web入会がLW普及活動、会員サービス向上につながればと考えます。

「私の希望表明書」は切抜き保管できます

なお、「リビング・ウイルの説明」と「私の希望表明書」を前のページ（7、8ページ）に掲載しました。切り取って保管できますのでご利用ください。

2017年「ご遺族アンケート」結果

9割以上がLWは受け入れられた

最期の瞬間まで自分らしい生き方を貫き……

「悲しみに暮れるというよりも母の生き方の清々しさが感じられ……」――そんな声も届いています。「ご遺族アンケート」に寄せられた様々な声を紹介します。

LWを持っていることと、
医師がそれを理解してくれていることの
安心感と信頼感は、
たとえようもありません。妻

会員であることは今後の生活の中で重要なことですし、
また今回、母(89)のLWを受け入れてもらえたことが、
安心して暮らせる
確証となりました。長女

●家族として、父（81）が言う「生きている」とはどういう状態を指すのか、逆にどういう状態になったらそうではないのか、を理解することが出来ました。尊厳死協会に入っていると伝えることで、医師に聞きにくいことも聞きやすくなり、医師の方も話しにくいこともしっかり伝えやすくなっていると感じました。（神奈川県）

●親戚一同皆会員です。入会の意義をよく理解し、一生の一大重要事項であると子供たちにも伝えてあります。この思いを基本に、毎日楽しく一生懸命に生活しております。（神奈川県）

●母（92）が、自立した人間としての生き方を貫いて一生を終わらせたことに尊敬と感謝の気持ちしかありません。長年にわたり母の心の支えになっていただいた協会にも御礼を申し上げます。（埼玉県）

●尊厳死協会という第三者機関があることで、本人の意思を公にでき、いざという時に家族が勝手に進めていると思われないですみました。（神奈川県）

●主人（84）亡き後、独り暮らしをしておりますが、協会に入っているということが心強く、一日一日を大切に暮らしてまいります。（北海道）

●担当医から「ご本人がこれだけ明確な意思を示されているので、それを尊重しましょう」と言っていただきました。（大阪府）

●亡くなった主人（68）の母親も会員でした。ＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）という難病を患った義母が、会員であることに安心して生活し自分の意思を貫いたのを見ていた主人でしたので、自分のときにも何の心配もせずに最期を迎えました。主人にとって、会員であったことが心の支えであったのではないかと思います。（神奈川県）

●母（76）がもしＬＷを持っていなかったら、あの時どういう選択をしたか。「備えあれば憂いなし」と言いますが、良い意味で覚悟が定まったと思っています。自分が不測の事態に陥った時も、家族が冷静な判断をしてくれるよう願って止みません。（京都府）

●本人の最期の過ごし方の希望が、ただ言葉だけではなく、あのカードを持ち、長年会費を払うという行動でした。それが分かりやすく助けられました。入会やカードを持つという決心が本人にあったことは重く、その決心を家族も守ってあげたいと思うきっかけになります。お茶の先生をしていた母（90）は、療養している居室に美容師を呼んで髪を夜会巻きにし、お弟子さんたちと楽しく過ごしていました。最後まで本人の尊厳を守ることが出来ました。（東京都）

●主人（87）が急に倒れ、頭はパニック状態でしたが、医療者へは「主人は平成3年から尊厳死協会に入会していますから延命は希望しないでしょう」とそれだけは、はっきり言えました。協会に入っていなかったら、ここまで冷静にできなかったと思います。（香川県）

●本人（76）からは、二度目の脳梗塞を発症した場合は医療措置をしないでほしいと言われていましたが、私としては少しでも一緒にいたいと思い、医師に手術を依頼しました。結局、意識が戻らないまま6年に及ぶ闘病生活をさせてしまい、後悔しています。（愛知県）

私たち家族は、
父(87)が日本尊厳死協会会員であり
最後までその考えを
貫き通したことを
誇らしく思います。長女

母を見送り、
悲しみに暮れるというよりも、
母の生き方の清々しさを
感じさせられて、
何か安堵しています。長女

最後に拠り所にしたのは、
父(91)が尊厳死協会に加入し続けているという事実が、
本人の意思表明であると信じることが出来たことです。
家族は本人の意思に
救われたと思っています。息子

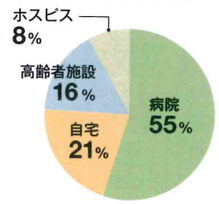
リビング・ウイルが果たした役割は

協会では、亡くなられた会員のご遺族に協力していただき、リビング・ウイル（ＬＷ）が役立ったかどうかをアンケート調査しています。２０１７年は７７７人から回答をいただきました。

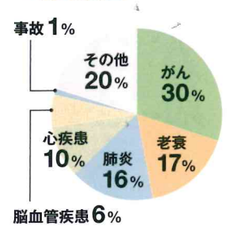
６５６人（84％）がＬＷを医療者に伝えていて、「ＬＷは受け入れられましたか」との質問には、「十分受け入れられたと思う」が72％、「どちらかといえば受け入れられたと思う」は21％で、計93％のご遺族がＬＷの医療的な効果を認めています。

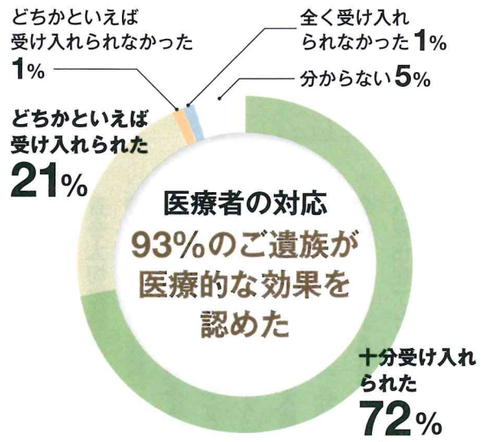
去年から実施しました「ＬＷはご家族にとってどういう意味を持ったか」を伺うアンケートは以下の通り。複数回答で一番多かったのは「本人の意思を実現出来た（４６８人）」、次に「医療方針を決定するに当たり、家族に迷いがなくなった（４１９人）」、さらに「医師とのコミュニケーションに役立った（２４０人）」、「ＬＷを持っていることで本人が安心して暮らせた（２２１人）」でした。

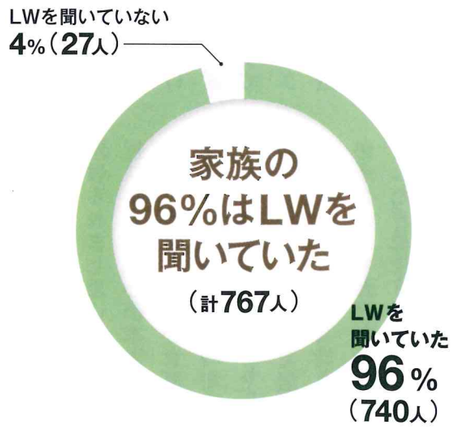
■亡くなられた場所



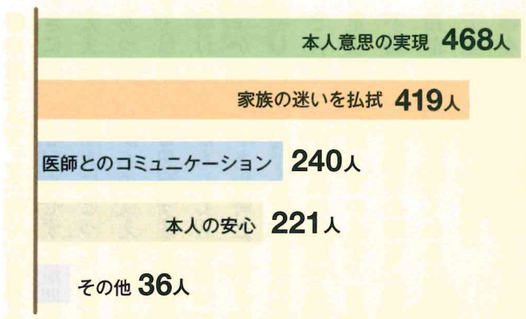
■死亡原因







■ LWの意味（複数回答）



■提示先（複数回答）

■提示時期（複数回答）

■提示方法（複数回答）

アンケートにご協力ありがとうございました

ＬＷ研究会で より議論の深化を

終末期における鎮静は、緩和ケアの一環と位置付けられ、現在、医療用麻薬や鎮痛補助薬を用いて手を尽くしても患者にとって耐え難い苦痛がある場合、鎮静は選択肢の一つになっています。

しかしながら、安楽死に近い医療行為になるのではないかという倫理的な議論があり、また十分な緩和ケアが行われれば鎮静はほとんど必要ではないと考える医師も少なからずいるため、オープンに話し合うことがなかなか難しい問題とされてきました。一方、鎮静の選択は患者、家族、医療者に大変難しい判断を迫ります。鎮静には患者本人と家族の意思確認、合意が必要ですが、死を間近にすると、患者さんもご家族も気持ちが揺らぐためです。そのため、患者、家族、医療者にとっても、鎮静のあり方は、重要なテーマとなっています。日本緩和医療学会は現在、鎮静のガイドラインの改定作業を進めており、穏やかな尊厳ある最期を目指す当協会としても注目しているところです。

今回は、鎮静を積極的に行っている緩和ケア病棟の医師と、鎮静を行うことが非常に少ない在宅医の取り組み方の違い、患者・家族側の受け取り方などさまざまな切り口から、終末期の鎮静について議論を深めていきたいと思います。

第７回日本リビングウイル研究会

テーマ 終末期鎮静
――苦痛のない最期を迎えるために必要か

日時 2018年6月23日（土）午後１時～４時半

会場 東京大学伊藤国際学術研究センター（地下２Ｆ）
伊藤謝恩ホール（東大構内、赤門横、東京都文京区本郷7-3-1）

定員 400人（事前申し込みは不要）、無料

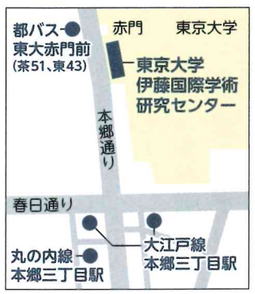
スケジュール

○コーディネーター　満岡 聰（医師、日本尊厳死協会理事、満岡内科クリニック）

第１部　鎮静についての説明と症例紹介
鎮静の定義・方法論・適応

第２部　パネルディスカッション
患者が希望する「眠るように亡くなりたい」とはどういうことか、「耐え難い痛み」は、どう測定するのかなど、具体的に語り合っていただきます。

登壇者　山崎章郎さん（医師、ケアタウン小平）
森田達也さん（医師、聖隷三方原病院　緩和支持治療科）
会田薫子さん（東京大学大学院特任教授　上廣死生学応用倫理講座）
中野貞彦さん（がん遺族会　青空の会）
長尾和宏（医師、日本尊厳死協会副理事長、長尾クリニック）



■ 開催に関する最新情報は
協会ホームページでご確認ください。　http://www.songenshi-kyokai.com

LW受容協力医師制度の展望

ルポ&インタビュー

患者さんの家庭の状況がなかなか見えてきません」

地域の拠点病院であるJCHO東京新宿メディカルセンターを訪ね、受容協力医師の清水秀文医師に、勤務医と開業医との対応の違いなどについて聞いた。

JCHO東京新宿メディカルセンター。飯田橋駅から歩いてすぐの旧東京厚生年金病院は、4年前に独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO・ジェイコー）の病院として、より一層の地域医療貢献をめざすべく再出発した地域の拠点病院だ。「医療・介護・福祉が切れ目なく連携して、地域医療・地域包括ケアの確保に向けて取り組んでいく」と謳っている。

その呼吸器内科医長を務め、尊厳死協会の受容協力医師でもある清水秀文（しみずひでふみ）医師は、2011年、36歳のときに定期健診で原発胚細胞腫瘍が見つかった。化学療法や腫瘍摘出手術を受けて、翌年に復職。5年間の経過観察期間をクリアーした。そしてちょうどその頃、当協会の受容協力医師に登録することになった。

「はたして『不可逆』か判断は悩むところ」

——受容協力医師になられてほぼ1年ですね。きっかけは？

清水　患者さんの紹介です。尊厳死協会に入会していた患者さんが亡くなられて、ご家族が協会に「本人の意思に沿って納得のいく最期を迎えることができた」旨を伝え、最期を看取った私のことなども話したことで、協会から受容協力医師登録の手紙がきたと思います。日本尊厳死協会自体の存在は、それ以前にも知っておりましたし、関心もありました。

——尊厳死協会のカードを提示された場合、治療方針が立てやすくなるとかはありますか。

清水　意見が一致するときはスムースですが、悩む場合も。

——例えば、どんなときに？

清水　人工呼吸器とか心臓マッサージはしない、というのがリビングウイル宣言ですね。それは回復の見込みのない「不可逆」の場合には「希望しない」ということで、医師からみて、それがはたして不治かつ末期なのかどうか、患者さんと意見が微妙に異なる場合があります。悩むところです。

——がんが見つかって、適切な処置をされて5年がたちました。受容協力医師になられたのは、その「5年経過」と関係があるんですか。

清水　いや、たまたま、その頃、さっきの患者さんを看取って受容協力医師の話があったということです。もっとも、それ以前から、肺がんや肺炎で亡くなられた方をかなり看取ってきましたから、「患者さんが終末期をどう迎えればいいのか」ということには常に関心がありました。

——ご自身がご病気になられて、終末期に対する思いがさらに強くなったようなことはありますか。

清水　特に大きく変わったということはないかと思います。ただ、患者になって入院してみて、いろいろ気づいたことはありますね。

地域医療の拠点病院として日々取り組んでいる

一つは、手術前の説明と同意書の多さに驚いたことです。入院してから4時間ほどの間に、入院診療計画書をはじめ手術や輸血、麻酔に関する同意書、それらの説明書など約10種類もの書類へ署名を求められました。医師であり、勤務しているこの病院でしたから省いた項目もあったようですが。

——これまでは医師として、同意書を求める立場でした。

清水　求める側ではありましたが、それはICUの看護師が求めたり、病棟の看護師が求めたり医師が求めたりと、求める側は1人1通か2通のつもりなんです。でも患者さん側からしたら、合わせれば10通にもなってしまう。

——そうなりますね。先生はいま、末期の患者さんにも接していて、特に気をつけていることは？

清水　私は勤務医ですので、在宅で対応する家庭医の先生とは違って、患者さんの家庭の状況や背景がなかなか見えてこないということはあります。家庭状況などは一応聞くようにはしていますが、実際に自宅に伺って診ているわけではありませんから見えてこない部分はありますね。家庭医の先生は付き合いが長いし家族ぐるみだし。私たちはどうしても、入院時からの付き合いになりますから。

——ここのような大病院には、開業医から患者さんが送られてくるわけですよね。背景や状況の申し送りはないんですか。

「自分ならどうされたいかが判断の基準」と話す清水医師

清水　特殊なケース以外は、あまりありません。基本的には病気のデータだけが送られてきます。患者さんから尊厳死協会のカードを提示されたり終末期の意向を示されたとしても「どうしてそういう考えに至ったのか」などについては、すぐにはわからないです。

——診療しながら聞き出していくことに。

清水　そういうことです。一つ難しいのはたぶん、こちらに紹介されてくるということは、多くの場合、よくなることを期待されています。在宅では無理なので治療をよろしく、というケース。つまり、ある程度積極的な医療的対応も期待されているわけです。終末期医療との折り合いをどうつけるのかが難しい場合もありますね。

——その判断の基準はどこになりますか。

清水　「もし自分ならどうされたいか」という点になるかと思います。常に難しい判断を迫られているというのが終末期医療だと思っています。

「尊厳死が認知されれば医師も対応しやすく…」

受容協力医師に登録し、当協会の会報にリストが掲載された直後、2人から電話があり、それぞれ30分ほど対応したという。「2人とも80代の女性で、この地域の方でした」と清水医師。「尊厳死とはなんですか」「受容協力医師ってどういうことをしてくれるんですか」、そんな質問だったという。

「尊厳死とか終末期医療への関心は今後ますます深まっていくでしょうが、実感として『尊厳死』についての考えはまだ成熟していないし、広く認知されていないという印象を持っています」と清水医師は言い、さらに「今後もっと認知されていけば、医師の対応もしやすくなるのではないでしょうか」と語った。

会報編集部・郡司　武

季節を感じさせる1枚の写真と
懐かしい唱歌でつづるページです

四季の歌

――その風景と背景

第四回

朧月夜

文部省唱歌

菜の花畠に　入日薄れ、
見わたす山の端　霞ふかし。
春風そよふく　空を見れば、
夕月かかりて　におい淡し。

里わの火影も、森の色も、
田中の小路を　たどる人も、
蛙のなくねも、かねの音も、
さながら霞める　朧月夜。

（『尋常小学唱歌（六）』大正3・6）より

誰もが口ずさんだことがある小学唱歌の代表曲の一つ。作詞・高野辰之（1876～1947年）、作曲・岡野貞一（1878～1941年）とされる。この黄金コンビは、「〈兎追いしかの山」の「故郷」や「〈秋の夕日に照る山紅葉」の「紅葉」、「春の小川」など、私たちの心を震わせる数多くの唱歌を世に送り出している。高野は長野県中野市の生まれで、隣の飯山市で小学校の教師をしていたことがある。岡野は鳥取市の生まれ。北信濃や山陰の日本の原風景が、この唱歌には漂っている。

「朧月夜」とは、春の夜に月がほのかに霞んでいる情景をいう季語。「里わ」とは里回、里曲と書き、人里のあるあたりをいう。春霞に里の火影も、そして鐘の音までもが霞んでいる春の情景が、あざやかに立ち上がる。

LWのひろば

思いは同じ　仲間は全国に

多くの人に支えられ

真崎ヤス　91歳　福岡県

夫の早期胃がん、私の副甲状腺機能亢進症溶血症が佐賀医大で診断されたのは、姑の認知症介護の最中でした。その後、91歳の姑の野辺送りをすませ、夫が胃を四分の三切除。私も手術を終え、長期輸血が始まりました。夫は老年になってペースメーカーを入れ、二人とも「多病息災」のなか、生死を深く思うようになり、平成12年に夫婦会員となりました。

夫は、がんの再発転移こそありませんでしたが、91歳のとき腸閉塞で緊急入院、4カ月で還らぬ人となりました。主治医の先生は私どもの意思を理解尊重され、最期まで最良の処置をしてくださいました。子や孫家族のなか「ありがとう」の言葉を遺し逝きました。夫の歌集出版も入院10日前に上梓、大変喜んでくれました。

三回忌を終えたころ、私は肺炎で3カ月入院し回復。同時に、孫からの思いがけない同居の申し入れ。60年の年齢差、厳しい祖母ですが、聞き入れてもらっています。水彩画や歴史講座など遊びの域を出ませんが、送迎をしてくださる友人に甘え、交流を楽しんでいます。脚力の衰えは否めませんが、転倒などで家族に重い負担をかけないように強く思います。多くの方々に支えられてきた日々、ただ感謝です。

夫との再会を信じ…

篠原礼子　69歳　群馬県

昨年の11月9日に、夫・敏雄がすい臓がんのために天に召されました。69歳でした。夫婦で尊厳死協会の会員になっておりましたので、夫だけ退会となってしまいました。

夫は大学に勤めておりましたが、亡くなる1週間前まで講義や講演、シンポジウムの司会など忙しく働き、11月4日に日赤医療センターの緩和ケア病棟に入り、6日目に亡くなりました。医師に「私は尊厳死協会の会員ですから延命措置はお断りします」とはっきり申しておりましたため、亡くなる2時間くらい前まで、家族と笑顔で会話を交わし、「また必ず会いましょう」と約束して、お別れすることができました。

私は現在、ALS（筋委縮性側索硬化症）を患っておりますが、リビングウイルを持っていますので、安心しています。夫のように、神さまの「ご計画」を信じて、いつか安らかに夫と再会できることを望んでいます。

「尊厳死」に揺れる心

斎藤　健　84歳　神奈川県

妻は28年前にクモ膜下出血の手術を受け、さらに7年前には脳梗塞を発症。この4年半は介護付き有料老人ホームで車イスの生活を送っていましたが、徐々に体力が低下し、寿命が迫っていることは主治医から説明を受けていました。そして昨年11月末、老人ホームの職員が夜間巡回時に、妻の呼吸が止まっていることに気づき、急遽、隣接の病院に搬送したところ、「すでに死亡」と宿直医が確認をしました。その段階で、連絡を受けた私が到着。状況説明を受け、自然死であることを了解しました。享年82歳でした。

「苦しまず安らかに逝けたのでよかった、本人が望んでいた尊厳死が叶えられた」というのが、その時点での私の心情でした。私たちは20数年前、妻がまだしっかり判断や意思表示のできたころ、尊厳死協会に入会していたのです。

しかし、通夜・葬儀を慌ただしく終えて、静寂な一人の時間になると、「どうして、もう少し早く気が付いて手当をしてやれなかったのか」と、

可愛さ満ちて
白山の初夏を彩るチングルマ
撮影／T.Kさん

後悔の念が、払っても払っても浮上してきました。息苦しそうな妻の様子を見たら、迷いなく医師に延命措置を依頼したであろう自分の姿を思い浮かべました。妻も私も明確に尊厳死を望んでいたのに、いざとなると心が揺れるものだと痛感した次第です。

四十九日の法要を終えたころになって、ようやく私の心も落ち着き、妻の尊厳死を受容できる心境にいたりました。

「おやすみ」に右手を上げ

樋口静枝　88歳　宮城県

同居中だった実母を2003年に見送った折に、尊厳死協会に入会し、2012年からは夫とともに夫婦会員として登録いたしました。そして昨年10月、夫が88歳の天寿を全うし、安らかに旅立ちました。

夫は20年前に脳出血で倒れ、右半身不随と言語障害の後遺症と闘う一方で、膀胱がん、胃がんも発病していました。亡くなる4カ月ほど前に精密検査を受けた結果、緩和ケア病棟への入院を勧められたのですが、本人と家族の希望で、在宅医療支援をお願いしました。

その際に主人が「尊厳死協会の会員証」を自ら提示。医師、看護婦、薬剤師の方々が定期的に訪問、親切に処置してくださいました。

その間、夫は、好きな旅行を計画し、医師と相談のうえ、現役時代に施工に関わり被災した発電所や施設に出向き、さらに長男が仕事で関わった「大宮鉄道博物館」へ身内10人で集まることまでできました。旅から帰ると急速に状態が悪化。医師から明日の入院を指示されてすべて準備したその未明。「おやすみなさい」の私の声に、右手を上げて応えたのでしたが……。静かな最期でした。

高度経済成長期、思う存分働いて、それなりに成果を上げ、二人の曽孫を抱くこともできました。「満足したヨ」と語っているように思います。

編集部より

●**投稿の募集**　テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの日々」など何でもけっこうです。600字以内で。掲載（写真含む）の方には図書カードを差し上げます。手紙またはファクス（**03-3818-6562**）、メール（**info@songenshi-kyokai.com**）で。

●**写真の募集**　7月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信（アドレスは同上）、またはプリントを郵送してください。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは5月15日です。

会員になってもLWの勉強は続きます ぜひご参加を

北海道支部

☎ 011-736-0290 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

公開講演会in札幌

日程◎5月12日（土）午後2時～4時
会場◎札幌エルプラザ3階ホール
札幌市のJR札幌駅北口近く

講演◎「在宅クリニックの現況と看取りの問題点」
講師◎**吉崎秀夫氏**　医療法人せせらぎ理事長、札幌在宅クリニックそよ風院長
定員◎300人、無料
どなたでも参加できます。問い合わせは北海道支部に。

旭川上川地区懇話会 発足記念講演会

日程◎5月26日（土）午後2時～4時
会場◎旭川市の科学館サオパル

講演◎「高齢者の終末期医療を考える」
講師◎**鈴木康之氏**　旭川上川地区懇話会会長、リバータウンクリニック院長
講演◎「最後まで生きることに寄り添うケア～小規模多機能型居宅介護での実践」
講師◎**布重勝彦氏**　小規模多機能型居宅介護事業所グレイス副施設長
定員◎150人、無料
問い合わせ◎旭川上川地区懇話会事務局（小規模多機能施設グレイス、木林）☎0166-34-0488

帯広とかち地区 懇話会の講演会

日程◎5月12日（土）午後1時半～4時
会場◎とかちプラザ 401会議室
帯広市のJR帯広駅南口正面

講演◎「医療のこと、福祉のこと、相続のこと、よろず相談」
講師◎**斉藤道俊氏**　弁護士
定員◎80人
講師は変更になる場合もあります。問い合わせは支部まで。

おしゃべり広場

日程◎4月17日（火）、5月15日（火）、いずれも午前10時～正午
会場◎札幌エルプラザ 4階大研修室B
定員◎各先着20人、予約不要

石狩南部地域懇話会春季研修会

日程◎5月20日（日）
会場◎未定（3月末に決まります）
テーマ「病院死、介護施設死と在宅死 ―病気の違いからの考察―」
講師◎**江端英隆支部長**　社会福祉法人彩世会理事長

東北支部

☎ 022-217-0081 ✉ tohoku@songenshi-kyokai.com

在宅緩和ケア 公開講演会

日程◎5月12日（土）午後1時半～3時40分
会場◎仙台市福祉プラザ「ふれあいホール」
仙台市青葉区五橋2-12-2　地下鉄南北線「五橋」駅　南1番出口　徒歩3分

講演1「〝満足死〟を目指して ―チームで在宅緩和ケア」
講師◎**今田かおる氏**
小川医院在宅支援診療所、東北支部理事
講演2「生老病死に寄り添う ―傾聴から学んだこと」
講師◎**楠　恭信氏**　臨床仏教師
定員◎300人、無料、どなたでもお誘い合わせてどうぞ
後援◎宮城県医師会・仙台市医師会・河北新報社
協賛◎東北大学実践宗教学寄付講座

第28回仙台駅横 リビング・ウイル交流サロン

テーマ「協会の新展開―会員のために、より親切に」
リビング・ウイルを補完する「私の希望表明書」を中心に
日程◎4月20日（金）午後2時～3時半
会場◎「せんだいアエル」6階特別会議室
JR仙台駅西口　徒歩3分
お気軽にお出かけください。無料。

関東甲信越支部

☎ 03-5689-2100 ✉ kantou@songenshi-kyokai.com

《地域サロン》のお知らせ

お茶を飲みながらお話しする集まりです

サロンin二子玉川

日程◎4月17日（火）午後1時半～3時半
会場◎玉川区民会館 集会室A　東京都世田谷区玉川1-20-21　東急田園都市線二子玉川駅下車 徒歩8分
入場無料、定員54人、申し込み不要、先着順

サロンin京成大久保

日程◎6月27日（水）午後1時半～3時半
会場◎千葉県習志野市市民プラザ大久保　習志野市大久保4-2-11　京成線大久保駅下車 徒歩10分
入場無料、定員30人、申し込み不要、先着順

サロンin本郷

日程◎4月13日（金）、28日（土）、5月11日（金）、26日（土）、6月8日（金）、23日（土）。いずれも午後1時半～3時
会場◎支部事務所（東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル5F、尊厳死協会内）
地下鉄丸ノ内線か大江戸線本郷三丁目駅下車すぐ
電話予約が必要です。支部まで

ご案内　難聴者の方々で、サロンなどイベントに参加ご希望の方は支部までご一報下さい
可能な範囲で対応したいと考えます。

北陸支部

☎ 076-232-0900 ✉ hokuriku@songenshi-kyokai.com

石川県地区講演会

日程◎6月16日（土）午後1時半～3時半
会場◎金沢市の石川県文教会館 4階401、402会議室
金沢駅前から香林坊方面行きバス、南町・尾山神社下車、徒歩2分

講演◎「安らかな死の為に（老衰死）」
講師◎**金川琢雄支部理事**　金沢医科大学名誉教授
定員◎100人、無料、どなたでも参加できます。

東海支部

☎ 052-481-6501 ✉ tokai@songenshi-kyokai.com

リビングウイル懇話会in浜松

日程◎4月21日（土）午後1時半～4時
会場◎浜松市医師会館7階講堂（浜松市中区伝馬町）
定員◎200人、無料
報告◎**小林 司** 支部長「尊厳死について」
講演◎「認知症の人～正しく知って備えるために」
講師◎**磯貝　聡さん**
聖隷三方原病院認知症疾患医療センター長
講演◎「医療現場で認知症の人の思いに寄り添うために」
講師◎**佐藤晶子さん**
聖隷三方原病院老人看護専門看護師
後援◎浜松市医師会、中日新聞社東海本社、静岡新聞社、静岡放送
この講演会は日本医師会の生涯教育認定講座です

地域サロンへどうぞ

日程◎4月25日（水）、6月27日（水）いずれも午後1時半～3時
会場◎名古屋市中村区の青木記念ホール（地下鉄中村公園駅から徒歩5分）
終末期医療、在宅介護などを語り合いませんか。
希望者は支部までご連絡を。無料

医療相談（通話無料） 0120-979-672

月・水・金曜日 午後1時～5時（変更あり）

病気や気になる症状、特に終末期にかかわる不安や悩みについて、相談員（看護師）が丁寧にお聴きし、皆さま自身が主体的に考えて解決できるように支援しています。

協会宛メール（✉ info@songenshi-kyokai.com）でも受けつけております。

関西支部

☎ 06-4866-6365 ✉ kansai@songenshi-kyokai.com

神戸フォーラム2018
～次世代へつなぐホスピス・在宅ケアとまちづくり～

主催◎特定非営利活動法人日本ホスピス・在宅ケア研究会

共催◎日本尊厳死協会

日程◎７月21日（土）午前10時～午後４時半
会場◎JEC日本研修センター神戸元町ジェムズビル

医療関係者だけでなく、市民の方々も一緒にホスピス・在宅ケアをまちづくりの観点から考えます。様々なセッションがあり、ＬＷ、看取りの法律、独居の看取りでは協会の長尾和宏副理事長、満岡聰理事も講師として参加します。

参加費◎3,000円予定

申し込み◎受付は５月７日（月）～７月13日（金）。

▽日本ホスピス・在宅ケア研究会ホームページの「フォーラム」「フォーム」からお申込みください。

▽ＦＡＸ（078-335-8669）神戸フォーラム担当、梅垣宛

件名「神戸フォーラム 参加申し込み」とし、①氏名（ふりがな）②会員・非会員、③所属・職業、④電話番号 ⑤FAX番号 ⑥ご住所（参加証等送付先）⑦懇親会（￥5,000）希望有・無

※日本尊厳死協会への申込みでないのでご注意下さい。

サロン交流会

テーマ「看護師・ケアマネジャーとして思う尊厳死の課題」

日程◎６月２日（土）午後１時～３時
会場◎支部事務所（JR新大阪駅、地下鉄御堂筋線新大阪駅から徒歩5分）

小宮悦子支部理事が、看護師、ケアマネとしての立場から話題提供し、みなさんの不安、経験、質問、意見をわかちあいます。

定例サロンへのお誘い

日程◎毎月第２、第４火曜日午後１時半～４時
４月10日、24日、５月８日、22日、６月12日、26日
会場◎支部事務所

四国支部

☎ 089-993-6356 ✉ shikoku@songenshi-kyokai.com

終活ワンコイン（500円）セミナー

４月24日（火）午後１時半～２時半
「葬儀・お墓や死亡後から発生する様々な事柄」
池永英夫氏　月心館葬祭ディレクター

５月29日（火）午後１時半～２時半
「安心して旅立つ為にしなければならない事」
吉村紀行氏　弁護士法人たいよう代表社員所長（支部理事）

６月26日（火）午後１時半～２時半
「在宅での看取りについて」
吉田美由紀氏　ベテル在宅療養支援センター所長

会場◎松山市のひめぎんホール別館第14会議室

定員と申し込み◎各30人、希望の方は支部まで

サロン

喫茶去だんだん お茶とおしゃべりの会
日程◎４月６日、５月11日、６月１日

趣味あれこれ会 絵手紙を楽しみましょう
日程◎４月20日、５月18日、６月15日

パソコンIT何でも会
日程◎４月27日、５月25日、６月22日

以上の３サロンは金曜日午後1時半～3時半、会場は松山市の支部事務所

「辞世の句」募集

俳句、短歌、川柳などで辞世の句を募集しています。記載要領は自由で、7月31日までに郵便、メールかFax（089-993-6357）で支部まで。
優秀作品は9月、俳都松山市で開催するＬＷ研究会四国地方会で発表し、粗品を進呈（もしくは郵送）します。

中国地方支部

☎ 082-244-2039 ✉ chugoku@songenshi-kyokai.com

出前講座の開催は支部まで

お友達同士の気楽な集まり、老人会など地域団体の十数人の集まりで、人生の最期をどう迎えるかを話題にする機会があれば、支部が講師を派遣する「出前講座」はいかがでしょうか。「終活」「身じまい」「終末期に希望する医療」などをテーマに。

1. 日時と会場（例:皆様のご自宅でも可能です）を確保して下さい。
2. 参加者5人様（例:ご近所お誘いあわせでも可能です）からＯＫ。
3. 対象者の性別も年齢も問いません。
4. 支部から講師を派遣します。

お問い合わせは中国地方支部まで、どうぞ。

九州支部

☎ 092-724-6008 ✉ kyushu@songenshi-kyokai.com

協会「おきなわ」市民フォーラム
第5回リビングウイル研究会九州地方会

テーマ「死ぬ覚悟、死なせる覚悟」

日程◎５月19日（土）午後１時半～４時半
会場◎沖縄県総合福祉センター ゆいホール（那覇市首里石嶺町4）

基調講演
「がん、認知症、死ぬまでハッピー！」
講師◎**長尾和宏　協会副理事長**
長尾クリニック院長

シンポジウム
「死ぬ覚悟、死なせる覚悟」
座長◎**上間　一（はじめ）　協会おきなわ会長**
シャロンクリニック院長
講師◎**長尾和宏**
渡嘉敷昌代
オリブ山病院緩和ケア認定看護師
具志堅正都　オリブ山病院チャプレン
堀川美智子
会員、介護リサーリおきなわ代表
宮城さゆり　家族、遺族

定員◎300人、無料、どなたでもお気軽に

「ふくおか」会報「リビングウイル」講読会

日程◎４月28日（土）午後３時～４時
会場◎北九州黒崎コムシティ２階 九州国際大学地域連携センター

定員◎15人、予約の必要はありません

問い合わせ◎支部「ふくおか」事務局
☎050-3706-3055

「みやざき」講演会

日程◎４月21日（土）午後２時～４時
会場◎ウエルネス交流プラザ２階　ムジカホール
宮崎県都城市蔵原町11街区25号

講演◎「外科医が考える安らかな死とは」
講師◎**東　秀史　協会みやざき会長**
メディカルシティ東部病院院長

講演◎「当院における在宅ホスピスケア」
講師◎**馬見塚勝郎氏**
藤元総合病院在宅療養科、診療科部長

定員◎280人、無料、申し込みは不要

後援◎宮崎県、都城市、三股町、宮崎県医師会、都城市北諸県郡医師会、宮崎県看護協会

問い合わせ◎協会みやざき事務局（メディカルシティ東部病院、中村）☎0986-22-2240

「かごしま」講演会

日程◎６月23日（土）午後２時～４時
会場◎かごしま市民福祉プラザ ５階大会議室（鹿児島市山下町15-1）

講演◎「認知症ケアを深める」
講師◎**黒野明日嗣氏　協会かごしま副会長**
公益財団法人慈愛会 いづろ今村病院院長

定員◎200人、無料、どなたでもどうぞ

後援◎鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、鹿児島県看護協会

問い合わせ◎協会「かごしま」事務局（五反田内科クリニック、井上）☎099-259-2038

LWの受容協力医師 第91報

2017年12月～18年2月の間に
新しく登録された医師の方々です。

[会は会員医師]

医療施設名	診療科	医師名（敬称略）	施設所在地	電話
日鋼記念病院	緩和ケア科	曽根良夫	北海道室蘭市新富町1-5-13	0143-24-1331
シャローム病院	内科 小児科 皮膚科 緩和ケア科	鋤柄　稔	埼玉県東松山市松山1496	0493-25-2979
和平会 坪井医院	内科　胃腸科　小児科　外科	坪井秀一	東京都千代田区神田和泉町1-13-12	03-3866-7815
東京ミッドタウンクリニック	総合診療科	草野敏臣	東京都港区赤坂ミッドタウン・タワー 6F	03-5413-0080
飯田クリニック	内科	川口信子	東京都台東区浅草1-35-9	03-3844-2072
東京トータルライフクリニック	内科　在宅医療	長屋直樹	東京都台東区雷門2-6-3　ユニカ雷門2F	03-5806-9871
東京トータルライフクリニック	内科　在宅医療	千葉宙門	東京都台東区雷門2-6-3　ユニカ雷門2F	03-5806-9871
コーラルクリニック	神経内科　リハビリテーション科	石垣泰則	東京都文京区本郷4-1-7　第二近江屋ビル301	03-5844-3133
健樹会 横山医院	内科	横山健一	東京都北区中十条2-22-3452	03-3928-3452
宮の前診療所	内科	土屋悟史	東京都荒川区西尾久2-3-2	03-3800-7111
荒川生協診療所	内科	泉水信一郎	東京都荒川区荒川4-54-5	03-3802-2601
千住中央診療所	内科 小児科 診療内科 精神科 腫瘍内科	山本　亘	東京都足立区千住大川町37-2	03-3881-5378
かもん宿診療所	内科	津島　陽	東京都足立区千住仲町12-16	03-3881-2793
苑田会 放射線クリニック	放射線科　内科	齋藤　勉	東京都足立区保木間3-4-19	03-5851-5751
あすは会 東伊興クリニック	内科 外科 整形外科 消化器内科 外科等	高本雄幸	東京都足立区東伊興3-21-3	03-5691-7077
武内クリニック	内科	武内幾夫	東京都足立区竹の塚2-26-8 メリーコート第二105号室	03-5831-6173
葛飾南クリニック	内科 在宅訪問診療 循環器内科 胸部外科	上野克仁	東京都葛飾区西新小岩1-3-11 フォーラム新小岩3階	03-5654-2321
健芯会 ライフクリニック	内科	勝間田　宏	東京都墨田区江東橋4-19-3　セントラルビル6F	03-5638-8556
パリアン　クリニック川越	内科	川越　厚	東京都墨田区立川2-1-9　KHハウス3F	03-5669-8301
あおば在宅クリニック	泌尿器科　訪問診療	永田雅人	東京都墨田区向島3-34-15-201	03-5619-1001
あおば在宅クリニック	神経内科　訪問診療	永田梨耶	東京都墨田区向島3-34-15-201	03-5619-1001
泰正会 成光堂クリニック	内科	市川和男	東京都江戸川区北小岩2-7-6	03-3657-6576
江戸川ホームケアクリニック	内科	安保賢一	東京都江戸川区船堀4-3-6　リベール船堀6階	03-5667-6221
鳳和会 船堀橋クリニック	内科　小児科　整形外科 皮膚科　リハビリテーション科	竹内孝治	東京都江戸川区船堀3-7-22	03-3675-4447
片桐会 たけし在宅クリニック	内科 精神科 緩和ケア 整形外科 皮膚科	大槻雄士	東京都江東区清澄1-4-12　ファーストレジデンスP506	03-5639-9163
成健会 とみおか医院	内科　外科	野元成郎	東京都江東区富岡1-26-20-2F	03-3642-7757
岡本メモリクリニック	内科　神経内科	服部　亮	東京都世田谷区鎌田3-17-6	03-5797-4040
岡本メモリクリニック	内科　神経内科	吾妻玲欧	東京都世田谷区鎌田3-17-6	03-5797-4040
青王会 クリニックDO田園調布	訪問　内科	本庄達哉	東京都大田区田園調布3-40-4	03-3721-9980
伍光会 田園調布醫院	内科　整形外科	肌附英幸	東京都大田区田園調布南22-10　光機舎ビル1F	03-5732-1955
かとうホームケアクリニック	内科　整形外科	加藤博則	東京都大田区下丸子2-6-23-101	03-3757-2162
柏木クリニック	内科 循環器内科 リハビリテーション科	柏木潤一	東京都渋谷区初台1-5-5　アクス初台604	03-6300-0873
三育会 新宿ヒロクリニック	内科	兼村俊範	東京都新宿区大久保2-18-14　新大久保五大ビル2F	03-5272-5600
愛有会 三愛病院	内科　産婦人科	竹下政志	東京都八王子市宮下町377	042-691-4111
昌慶会 小野田医院	外科　内科　胃腸科	小野田恵一郎	神奈川県川崎市宮前区6-22-14	044-854-8821
晃徳会 横山医院	内科 整形外科 リハビリテーション科	横山太郎	神奈川県横浜市保土ヶ谷区峰岡町2-118	045-331-3296
露木耳鼻咽喉科医院	耳鼻咽喉科　在宅緩和ケア	露木弘光	山梨県甲府市中央4-9-2	055-235-3387
たぶせ在宅クリニック	在宅緩和ケア　内科	田伏弘行	和歌山県和歌山市湊桶屋町10　M&Mビル A号室	073-424-0207
半田医院	外科　内科	半田貢雪	島根県浜田市港町199-1	0855-22-0288
江口内科医院	内科	江口春樹	島根県出雲市塩冶有原町6-43	0853-23-3166
朝山医院	内科	朝山　裕	島根県出雲市松寄下町1097	0853-22-3360
敬川沖田クリニック	内科　外科　整形外科 ペインクリニック　スポーツクリニック	沖田泰治	島根県江津市敬川町296-6	0855-53-0050
高梨医院	小児科　内科	高梨俊央	島根県隠岐郡隠岐の島町栄町1410	08512-2-0049
くろたに内科クリニック	内科	黒谷浩史	島根県益田市久城町912-1	0856-23-7737
くろたに内科クリニック	内科	黒谷章子	島根県益田市久城町912-1	0856-23-7737
胃腸科内科田中医院	胃腸科　内科　一般	田中三雄	島根県松江市宍道町宍道946-1	0852-66-0022
仁医会 井口医院	内科	井口雅之	広島県広島市安佐北区加部7-5-7	082-815-1777
高知医療センター	緩和ケア内科	原　一平	高知県高知市池2125-1	088-837-3000
霧ヶ丘つだ病院	呼吸器内科	津田　徹	福岡県北九州市小倉北区霧ヶ丘3-9-20	093-921-0438
あまのクリニック	内科	天野雅義	福岡県北九州市小倉北区東篠崎3-5-48	093-967-9186
徳力小野医院	内科 麻酔科 リハビリテーション科	小野研治	福岡県北九州市小倉南区徳力新町2-13-26	093-963-8844
池園医院	内科	池園　洋	福岡県北九州市戸畑区中原西3-2-10	093-871-2068
桃園公園クリニック	内科　外科	福永源太	福岡県北九州市八幡東区桃園1-5-1	093-671-1119
森田医院	内科　小児科	森田　翼	福岡県遠賀郡水巻町梅ノ木団地41-2	093-201-0616
楠本内科医院	内科 循環器科 腎臓内科 消化器内科	楠本拓生	福岡県遠賀郡水巻町吉田東2-11-1	093-201-5121
健和会 町上津役診療所	内科	川本京子	福岡県北九州市八幡西区町上津役東1-7-38	093-611-2811
聖和会クリニック	内科　循環器科	貞安孝夫	福岡県遠賀郡芦屋町高浜町18-40	093-223-1112
木屋瀬クリニック	呼吸器科　循環器科　外科	嶋津　明	福岡県北九州市八幡西区木屋瀬1-14-14	093-618-6092
今光会 今光ホームケアクリニック	内科　外科　呼吸器内科 呼吸器外科　リハビリテーション科	小山倫浩	福岡県北九州市若松区今光1-9-10	093-791-2200

医療施設名	診療科	医師名（敬称略）	施設所在地	電話
明日花クリニック福津在宅診療所	内科	入来勇人	福岡県福津市日蒔野3-1-109	0940-38-5577
すずらん会 たろうクリニック	内科　精神科　心療内科　老年内科	内田直樹	福岡県福岡市東区名島1-1-31	092-410-3333
ももち浜クリニック	内科	吉田信一	福岡県福岡市早良区百道浜2-3-2　TNC放送会館2F	092-846-0022
原外科医院	外科　肛門科　胃腸科内科 整形外科　麻酔科	原　文昭	福岡県大野城市白木原5-3-11	092-591-2122
燦宗会 どい内科クリニック	内科　消化器科	土居崇仁	福岡県筑紫野市光が丘4-5-3	092-926-7415
政裕会 ときつ医院	内科　小児科　神経科	野村明彦	福岡県福岡市西区内浜2-6-7	092-882-3321
洗心会 児嶋病院	内科 外科 脳神経外科 胃腸内科 肛門内科 リウマチ科 疼痛緩和内科 リハビリテーション科	兒嶋良太	福岡県飯塚市本町19-32	0948-22-1498
松口循環器科・内科医院	内科　循環器科	松口武行	福岡県飯塚市桀市131-1	0948-26-0800
矢津内科消化器科クリニック	内科　消化器科　緩和ケア内科	矢津　剛	福岡県行橋市行事7-19-6	0930-22-2524
永尾医院	内科　外科　胃腸科	永尾治久	福岡県築上郡築上町大字安武150-1	0930-52-0502
筒井医院	内科	筒井竹人	福岡県久留米市花畑3-2-2	0942-32-4114
徳志会 あさひクリニック	内科　外科　麻酔科　在宅医療	三浦一秀	福岡県久留米市上津町105-9	0942-65-3027
田中まさはるクリニック	内科　外科	田中政治	福岡県久留米市北野町今山516-1	0942-41-3535
やなぎ医院	内科　循環器科　消化器科	柳　純二	福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋18	0942-77-0858
有明クリニック	内科	山内祐哉	福岡県大川市大字酒見215-1	0944-85-8080
清和会 長田病院	内科	木下正治	福岡県柳川市下宮永町523-1	0944-72-3501
みどりの杜病院	ホスピス緩和ケア科	原口　勝	福岡県八女市立野362-1	0943-23-0002
弘恵会 ヨコクラ病院	外科　総合診療科	横倉義典	福岡県みやま市高田町濃施480-2	0944-22-5811
玄和会 ひまわりAクリニック	消化器内科 呼吸器内科 消化器外科 肛門外科 外科 リハビリテーション科	白水玄山	福岡県久留米市宮ノ陣4-4-7	0942-30-2030
竹田津医院	内科　小児科	竹田津宏子	福岡県久留米市国分町744-3	0942-21-3720
いまとみクリニック	外科　内科　消化器科	今冨亨亮	福岡県築上郡吉富町今吉232-1	0979-24-8688
萬生会 合志第一病院	内科　緩和ケア科	和田奈緒子 会	熊本県合志市御代志812-2	096-242-2745
おもろまちメディカルセンター	循環器内科	嘉数　朗	沖縄県那覇市上之屋1-3-1	098-867-2116
そらクリニック	内科　呼吸器内科　心療内科	甲口知也	沖縄県那覇市安里2-5-1　インペリアルハイム喜納Ⅱ305	090-4204-4721
ゆずりは訪問診療所	在宅医療	屋宜亮兵	沖縄県那覇市首里石嶺町1-123-12	098-885-7001
きなクリニック	内科　外科	喜納美津男	沖縄県那覇市首里儀保町1-26-3	098-885-4976

【受容協力医師についてのご案内】

全国に1800名ほどの医師が登録しておりますLW受容協力医師のお名前は、協会各支部のホームページ（HP）で閲覧することができます。**会員専用認証パスワードは「jsdd（半角小文字）」です。**各支部のHPアドレスは会報の最終ページ左隅に掲載してあります。紙に印刷した受容協力医師リストをご希望の方は、各支部にご連絡ください。ファクスか郵送でお送りいたします。

ご寄付ありがとうございました（敬称略）

2017年12月7日～18年3月6日に
ご寄付いただいた方々です。

青沼恭子	1,000	在前正昭	4,000	種田和子	4,000	山本幸子	10,000
有賀郁子	3,000	櫻井初子	10,000	玉木光子	4,000	山本菅子	10,000
伊藤宜之	4,000	里　ヤスエ	2,000	丹那誠子	10,000	匿名・千葉県	1,000
大西利忠	2,000	佐藤文代	10,000	中埜ユリコ	100,000	匿名・札幌市	10,000
大石香代子	20,000	篠原礼子	10,000	萩原　甫・久子	2,000	匿名・埼玉県	3,000
岡田正雄・あゆ	4,000	篠原戊辰	8,000	萩原孝行・和子	2,000	匿名・仙台市	4,000
奥山康男	5,000	柴田昭子	1,000	林田高子	2,000	匿名・広島市	1,000
加賀　友	1,863	鈴木紀久栄	3,000	平野陽子	20,000	匿名・広島県	5,000
梶原壽恵子	16,429	鈴木悦朗（向日葵会）	13,720	福居八重子	43,850	匿名・静岡県	3,000
金田忠吉	59,477	髙橋三千子	10,000	細谷ヨシ子	2,000	匿名・広島県	10,000
久慈　巌	4,000	田口重子	7,338	松本仙太郎・米子	50,000	【関西支部扱い】	
久保和美	5,000	田﨑孝子	20,000	宮野利雄	5,000	匿名・京都府	50,000
小林節子	6,260	田中純治	5,000	柳父美津子	2,229	前田カヂヨ	2,980

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用ください。切手でのご寄付もお受けしています。いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であることをお書き添えください。

●本部
〒113-0033
東京都文京区本郷２-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562
メール
info@songenshi-kyokai.com
ホームページ
http://www.songenshi-kyokai.com/
郵便振替口座
東京00130-6-16468

●北海道支部
〒060-0807　札幌市北区
北７条西２丁目６　37山京ビル801
TEL 011-736-0290
FAX 011-299-3186

●東北支部
〒980-0811　仙台市青葉区一番町
1-12-39　旭開発第２ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部
〒113-0033　東京都文京区
本郷２-27-8　太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海支部
〒453-0832　名古屋市中村区
乾出町２-７　正和ビル２階
なかむら公園前法律事務所内
TEL 052-481-6501
FAX 052-486-7389

●北陸支部
〒920-0902　金沢市尾張町1-7-1
山崎法律事務所内
TEL 076-232-0900
FAX 076-232-0932

●関西支部
〒532-0003　大阪市淀川区
宮原4-1-46　新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365
FAX 06-4866-6375

●中国地方支部
〒730-0024　広島市中区
西平塚町２-10
TEL 082-244-2039
FAX 082-244-2048

●四国支部
〒790-0067　松山市大手町1-8-16
二宮ビル３F　B
TEL 089-993-6356
FAX 089-993-6357

●九州支部
〒810-0001　福岡市中央区
天神1-16-1　毎日福岡会館５階
TEL&FAX 092-724-6008

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

リビング・ウイル
Living Will

（終末期医療における事前指示書）
（平成29年７月改訂）

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に私自身の考えで書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成しない限り有効であります。

□ 私の傷病が、現代の医学では不治の状態であり、既に死が迫っていると診断された場合には、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りいたします。

□ ただしこの場合、私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください。

□ 私が回復不能な遷延性意識障害（持続的植物状態）に陥った時は生命維持措置を取りやめてください。

以上、私の要望を忠実に果たしてくださった方々に深く感謝申し上げるとともに、その方々が私の要望に従ってくださった行為一切の責任は私自身にあることを付記いたします。

リビング・ウイルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わりが近づいたら延命措置を望まないで、自然の摂理にゆだねて寿命を迎えるご自分の意思を表した「リビング・ウイル」を発行、その普及に努めています。

現在11万人を超す方々が「リビング・ウイル」を持ち、安心した日々を送っています。自然のまま寿命を迎えることは、最期の日々をよりよく生きることであり、今を健やかに生きることにつながります。

お友だちやお知り合いに協会や「リビング・ウイル」のことをお伝えいただければと願っています。

事務局から

会費の自動払込のご案内
希望者はご連絡ください

協会年会費払い込みには、自動払込制度（金融機関口座から自動引き落とし）制度があります。利用には諸手続きがありますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。次の要領で実施しております。

対　象	ご希望の会員
払込日	会費払込該当月の28日（４月払込の方は今回は５月１日に引き落とし）
払込額	会費相当額
手数料	１回の払込に162円（150円＋税）のご負担があります
取扱金融機関	国内ほとんどの金融機関（信金、信組、ゆうちょ銀行、農協含む）
領収書	預金通帳の金額摘要欄に協会名を印字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷してあります。銀行振り込みの場合は会員番号（００を省く）も記入して下さい。なお協会ではコンビニでの振り込みをお勧めしております

今号の１枚
『緑増す』

Living Will 目次
— 会報2018年4月 No.169 —

02 インタビュー 作家 北方謙三さん
07 「事前指示書」について
08 「私の希望表明書」の書面
09 「Web入会」がスタート
10 2017年「ご遺族アンケート」結果から
13 第７回日本LW研究会の案内
14 LW受容協力医師制度の展望 ルポ＆インタビュー・清水秀文医師
16 ●連載「四季の歌」 朧月夜
18 ● LWのひろば
20 ●支部活動 2018 春～夏
24 LW受容協力医師のリスト／寄付
26 事務局から／編集後記／目次
27 終末期医療における事前指示書／本部支部一覧
裏表紙 出版案内

協会会員：11万669人
（2018年3月5日現在）

次号は、2018年7月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

編集後記

●「尊厳死ってなんですか」「先生は最期までちゃんと看てくれるんですか」。近くに住む高齢女性二人から突然電話がきて、病院に訪ねてこられ、そう聞かれたという。ルポ（14・15ページ）で登場いただいた清水秀文医師が、１年前の会報１６５号の「受容協力医師登録リスト」に掲載されてすぐだったという。診療ではないので別に時間をとってそれぞれ対応したそうだ。会報がすみずみまで読まれていることを強く実感し、姿勢を正した次第。（郡司）

●スマートフォンからも協会に「Web入会」できるって、本当？　事務局担当者の説明を聞きながら、内心不安がったのはまことに「不埒につき」でした。国民の半数超がスマホを持ち、その半数超がインターネットを閲覧する時代です（総務省の調査）。非スマホの「ガラ系」携帯電話で頑張って二十年。少数派の意地を思わぬところで噛みしめることになりました。（白井）